

国際基督教大学「オールジェンダートイレ」の視察について（報告）

日 時：令和 3 年 11 月 25 日（木）14:00～15:00

参加者：

（立川市 S D G s 推進委員会）片桐委員長、佐藤副委員長、笹浪委員、山本委員
田中委員、寺田委員

（立川市関係部署）行政管理部施設課坂東係長、教育委員会教育総務課石崎主査
（事務局）総合政策部栗原部長、企画政策課浅見課長、企画政策課岡本主事

概 要：

- I. 国際基督教大学（以下、I C U と記述）の加藤教授（学生部長）、高田・管理部管財グループ長から、オールジェンダートイレの開設経緯や、利用する上での工夫、設置拡大に向けた課題等について説明
- II. オールジェンダートイレ実地に訪問し、利用に向けた工夫や構造について見学

＜主な説明要旨＞

- 戦前の旧中島飛行機の研究施設を元に校舎が整備されたことから、校舎本館が老朽化し、トイレ改修の要望が多数寄せられていた。また、学生の男女比率に比べ、著しく女子トイレが不足していたことから、男女比率に見合ったトイレの設置数へ改修する必要があり、改修機会を利用して、①女子トイレ数の確保、②ジェンダー教育の視点からオールジェンダートイレを設置することとした。
- 課題として、利用者の心理的抵抗や、盗撮等の犯罪の心配、外部から初めて I C U に来た利用者の戸惑いや男性用小便器利用後の汚れがあげられた。
- このため、トイレ設計にあたり、利用者のすれ違いを減らす動線の工夫や、トイレ・洗面が完結できる広めの個室の設置、男性専用個室小便ブースの設置、性別に関係なく利用できるミラー&カウンターの整備、また、行事等の際は仕切りを設けて男女別トイレに変更可能にする等の工夫を行った。
- オールジェンダートイレ導入の良かった点として、「自分はこのトイレを利用したときに抵抗があったが、マイノリティの人が今まで、どのような気持ちで男女別トイレを使っていたのかわかった。」という声が学生アンケートを通じて寄せられたことである。
- 今後の設置拡大に向けた課題としては、設備の賛否両論があり、意見に隔たりがあることから、経営レベルで設置の意思決定が必要となること、利用したい人と利用したくない人双方に配慮した代替施設の整備、防犯設備の増強など設置環境に合わせた設備の工夫、なぜ設備が必要なのかといった利用者理解への教育・説明等が必要と考えている。

※広報たちかわ 12 月 25 日号にも視察を実施した旨が掲載されております。



▲トイレ入り口には施設内マップを掲載



▲トイレのロゴ



▲個室ブースはトイレから洗面まで完結



▲仕切り扉を設置
開閉式にすることで男女別へ切替可能



◀（実際に説明する加藤教授）
ジェンダーレスでは、「性のない」という意味から性別を無くすという意味になってしまうため、全ての性別を包摂するという意味を込めて「オールジェンダー」という呼称が定められた。